

中間支援活動助成(基本)事業実績報告

団体名	(特非)市民事務局かわにし	代表者名	理事長 三井ハルコ
事業名	「NPO大学・マナビ塾」2022		

<事業実施実績>

	①相談業務	②ネットワークの構築 情報提供	③人材育成 (講座開設等)	④書類作成 指導	⑤その他 (調査研究等)
R3 実績	約10	—	15人 (13団体)	約3	—
R4 計画	—	—	15人 (8団体)	—	—
R4 実績	10(18回)	3	13人 (13団体)	3	2

<効果と成果>

■スタッフの支援力アップ <各種相談に携わる中間支援スタッフの研修>

・中間支援組織の必要性・重要性は認識されているが、窓口対応や支援業務・相談業務に従事するスタッフを対象とした研修の場は充分とは言えず、スキルアップは各自のOJTに委ねられているのが現状である。

・各市民活動団体への適切な支援をしつつ、市民社会の裾野を広げ、新たな価値創造の動きを継続するためにも、中間支援組織の支援力向上は不可欠で、「NPO大学・マナビ塾」はその研修の場を提供している。

■NPO マネジメント講座のオーソライズ <定型的な支援方法継承の必要性>

・「NPO大学」のように官民協働で実施してきたオーソドックスな研修は類が無く、今後も時代に即応しながら恒常的・継続的な開催が望まれる。「CS神戸」からバトンを受けて以降も合わせると受講延べ人数は1,000人を越え、県内NPO人材の育成に確実に寄与していると言える。また「NPO大学・マナビ塾」は、自団体の「定期健診」の機会としても活用でき、自主自律的な組織マネジメントにも有用である。

<今後の展望>

・認定NPO法人CS神戸が、兵庫県やひょうごボランティアプラザと協働で実施してきた「NPO大学」事業を、2015年にバトンを受け継いでから8年となる。全県事業として県内各所で実施してきたが、効果検証の視点からは、同じ地域で、ある程度継続的に実施したほうが、成果が上がるのではないかとの意見が講師陣から「ふりかえり」時にあった。

・また、昨今、NPO法人の解散数が認証数を上回る傾向のあるなか、アフターコロナを見据えたNPO法人の在り方を考え、中間支援NPO法人の存在意義を今一度鑑みると、「NPO大学・マナビ塾」の中身のブラッシュアップが必要な時期を迎えているのではないかと感じた。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	500,000
参加費	27,000
自己資金	881
合計	527,881

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	人件費	137,500	129,500
	謝金	181,000	181,000
	旅費交通費	10,240	10,240
	その他 (等)	45,000	45,000
	小 計	373,740	365,740
間接経費 (一般管理費)		154,141	134,260
合 計		527,881	500,000